ル。細根ヲ除イタ後所謂「ミガキ」ト稱シテ木灰ト共ニ桶ニ入レ丸キ棒ニテ根ヲ除去スル際ノ樣ニ攪拌操作シテ製品トシテ仕上ゲル。

同島ニ於ケル栽逵ノ年產額ハ約 3000 斤トノ事デ筆者等ノ赴イタ當時ノ小賣値ハ風乾シタ丈ノ粗製品ガ 1 斤 28 錢、「ミガキ」ヲ掛ケ精製セルモノ 1 斤 35 錢デアツタ。尙製造者ノ製品ハ一旦產業組合ヲ經テ各市場殊ニ大阪方面へ多ク出荷サレルトノコトデアル。

序ニ一言スレバ前述ノ通リ同島ニハ諸處ニ恰モ半自生狀態デ相當量ノうこんガ人家附近ニ生育シテヰルモ土地ノ住民ハ全然利用シナイトノコトデアル。

(1936年 9 月 14 日東京帝大醫學部藥學科生藥學教室ニテ記ス)



Fig. 6. *Curcuma longa* L.
(下屋久村船行ニテ 1936 年 8 月 2 日、藤田撮ル)

雜 錄 Miscellaneous

○臺灣產一新唇形科植物

近著ノ HOOKER's Icones Plantarum, 5 series. vol. III part. 2 t. 3230 (1934) デ *Micromeria formosana* MARQUAND トイフモノガ發表サレテ居ル。ひめはくかノ一種デアルガ臺灣デハ始メテノ屬デアリ、*M. Wardii* MARQUAND et AIRYSHAW ニ一番近イガ、丈ケガ低ク、枝ヲ打チ、葉小サク花冠モ小形、小苞ハ缺ク點デ區別出來ル由。丈 10 cm 程ノ多年生草本デアツテ、臺灣ノ某氏ガ Kew ニ送ツタ種子カラ發芽、育テ上ゲテ記載シタトイフ。日本ノフロラハ日本人ノ手デ當然開明サルベキモノト思ハレテ居ル今日、ソノ方面ノ人モ澤山アルニカカラハズ、所謂出シ拔カレタ態ノ事態ヲ生ジタノハ澤田氏ノ言ヲ藉リレバ民族的慨嘆ニ堪ヘヌ所デアル。 (前川文夫)

○やへがはかんば

本年八ケ嶽山麓ヲ走リ廻ツテやへがはかんば (*Betula dahurica* PALL) ヲ見テ來タノデ其寫眞ヲ出サシテ頂ク事ニシタ。何ニシロ同方面デナイトアンナニ澤山ハ見ラレナイ。尤

モ武州川乘山頂ニモアルガアレ程ハ無イ。サテ、此ノやへがはかんば卽こをのをれハ中井博士ノ說ニヨルト本物ノ *B. dahurica* PALL 其物トハ少シク異ル存在ノ由デ、何レ同博士ニヨリ何ントカ判決ガ下サレルト思フガ、多年朝鮮デ本物ノ *B. dahurica* ニ接シテ居ル同氏ノ言丈ニ注意スベキ說デアルト言ハネバナラナイ。此寫眞材料ハ全部東大腊葉室ニ置ク。

(久內淸孝)



Bark and leaf-bearing twig of a tree known as *Betula dahurica* PALL., growing at the foot of Mt. Yatsugatake in prov. Sinano, Japan. 信州八ケ嶽山下ノやへがはかんばノ莖ト葉ヲ有スル枝

○ちやノ木ノ花ノ咲キ方

此ノ號ガ出ル頃ニハ茶ノ花ガ咲ク頃ニナルデアラウ。ソウシテ「ハイキング」ノ群ガ野山ニ候鳥ガ、歸ツテ來タ樣ニ、此處彼處ノ野山ニ姿ヲ見セルデアラウ。余ハ昨年ノ其頃武州大箕谷大幡ノ附近デ、茶ノ樹ヲ見テ步イテ居タラ、大キナ樹叢ノ中デ、寫眞ノ樣ナ咲方キヲシテ居ル枝ヲ見テ採ツタ。大正5年ノ頃、牧野先生ガ相州鎌倉ノ某寺ノ庭カラ、ヤハリソンナモノヲ採ツテ來ラレテ、茶ノ花序ヲ語ラレタ事ヲ今想起スルノデアルガ、茶ハ一花宛咲ク場合ガ多イガ、時々本來ノ咲キ方ヲスルラシイ。中井博士モ朝鮮森林植物編第17輯(昭和3年12月刊行)中ニ茶屬ノ記載ヲサレテ「岐散花序ハ腋生、本來三花ヲ附クレドモ通例減數シテ一乃至二花ヲツク」ト述ベテ居ラレル。此事實ハ全ク面白イコトデアル。此點一般採集家ハ、目茶苦茶ニ、人ヲ茶ニスル樣ナ枝ヲ採ツテ來テ、ソレヲ鑑定サセルガソンナ人達ニハコンナ話ハ面白クナカラウ。然シ憶ニ面白イコトデアラネバナルマイ。實ニヨク見レバ見ル程自然ハヨイ我等ノ良教科書デアル。



ちやノ木ノ花序 Inflorescens of *Thea sinensis*

(久內淸孝)